

和歌山 人・もの・地域

和

n a g o m i

Vol.53
2024

守り 守り 継ぐ 人々 モノ

祝
世界遺産登録20周年

過去から未来へ 想いをつなく再生の道
観音浄土を目指した補陀落渡海 千数百年の信仰を継承する
聖地・高野山の森を守り、育てる
新宮に息づく文化の遺伝子

知事対談 小久保裕紀×岸本周平
記憶に残る和歌山の風景【箕島漁港とうたせ船】
Wakayama 移住定住ストーリー
凄いぞ！和歌山【林燃系株式会社】
プレミアム和歌山【南紀熊野蜜】
【探訪】麻酔手術の先駆け・華岡青洲ゆかりの地

熊野本宮大社へと向かう熊野古道の石畳。

祝 世界遺産登録20周年

守り伝えるモノ 守り継ぐ人々

神話の時代から、
神々が鎮まる特別な場所だった紀伊半島。
太平洋に大きく張り出し、
豊かな水が深淵で神聖な森林を育んだ。
起源や内容を異にする聖地が生まれ、
それぞれの聖地をつなぐ信仰の道が生まれた。
しかしそれらは、ただ存在していたわけではない。
歴史と文化を守り、寄り添いながら、
未来へとその想いを繋いできた人々がいた。

聖地
リゾート
Seichi Resort
WAKAYAMA
和歌山

高野山真言宗総本山金剛峯寺に展示されている高野杉。根本の周囲は9mもあり、樹齢は約700年以上といわれている。

熊野本宮大社のほど近く、木々に囲まれ普段は静かな三軒茶屋跡に、子ども達の元気な声が聞こえる。我先にと土嚢袋を手に持ち、真砂土を詰め込み急な階段を上がっていく。この日行われていたのは、世界遺産・熊野古道の道普請だ。和歌山県が全国ではじめて参加型の保全活動として始め、すでに15年以上にわたり、多くの学校や企業などの協力のもと続けられている。

「ゆつくりでいいよ。自分で運べる量を持ってね」という先生や和歌山県世界遺産センターの土永沢さんたちの声を聞き、互いに声を掛け合いながら、那智勝浦町立下里小学校の生徒31人が盛り土を一生懸命運んでいく。「今日の道普請は、三軒茶屋跡から伏拝王子に向け400mほど歩いたところです。土の量は1.5tといつもより多く、距離も遠かったので少し時間がかかりましたが、元氣な皆さんのおかげで、3箇所目の土の補充作業ができました」と土永さん。道普請とは、台風や大雨による土砂の流出や傷みを修復することだが、単なる土木作業ではない。土留のために横木を階段状に設置し、



①土嚢に込める真砂土はあえて他所のものを使用する。そうすることで地層ができ、現在の様子を数十年後数百年後に伝えることができるという。
②修復箇所に必要な土を分担して運ぶ。この日は急な階段を何往復もして、1人あたり約5kgもある土嚢を担いで上った子ども達。③足で踏み固めることで、より強固なものになり、道が再生される。

過去から未来へ 想いをつなぐ再生の道

人力で真砂土を運び込み、足で踏み固める。重機が入ることもできず、なにより文化財であるために昔と同じ方法で修復しなければならぬ。それゆえ世界遺産に登録されている全長約350kmの参詣道の内、今回修復できたのは、ほんの数メートルにすぎない。そしてまた雨が降れば土砂は流れ、人が歩けば道は傷む。それでも熊野古道が信仰の道として今も存在するのは、歩くことが信仰そ

のものと考えられたと同時に、千年以上も前から人々が守り修復してきたからだ。

「土を運ぶのは大変でしたが、頑張ったおかげで道は綺麗になりました。これからは機会があれば参加して、熊野古道を守っていきたいです」と子ども達。ほんの数メートルだったかもしれないが、道を守るといふ想いは、過去から未来へと繋がっていた。

「タコ」と呼ばれる土木道具。持ち上げて落とし、道を固めるのに使う。

和歌山県世界遺産センター
住所/田辺市本宮町本宮100-1
電話/0735-42-1044



横木は、足をかける階段ではなく、土砂を留おくためのもの。

千年の時を越え、幾多の試練から甦る。川の参詣道を継承する地元住民の力。

熊野川の川舟下りは、上皇たちも利用した川の参詣道である。世界遺産登録直後の2005年に開始するも、2011年の紀伊半島大水害では大きな被害を受けた。しかし川舟下りは単なる観光の道ではなく祈りの道。その歴史を途切れさせる訳にはいかないと、川舟下りに関わるメンバーの努力により翌年には復活を遂げた。「雨の日も風の日もあるでしょう。でもそれら全てが熊野の恵です」と言う、語り部の福辻京子さん。熊野を愛する想いがつないだ奇跡の物語はこれからも続く。



観音浄土を目指した補陀落渡海 千数百年の信仰を継承する

太平洋の熊野灘はその昔、補陀落の海と呼ばれた。観音菩薩が降臨する霊場を補陀落といい、そこでは観音菩薩がすべての者の願いを聞き入れ、救いの手を差し伸べるといふ。

熊野三山を構成する三社二寺の一寺で熊野灘に面する補陀洛山寺は、インドから熊野に漂着した裸形上人によつて那智山とともに開山されたと伝わる。「補陀落とは、サンスクリット語でポーターラカ、観音浄土を意味します。当寺で修行した上人(住職)は60歳になると、補陀落渡海船と呼ばれる小船に乗り込み、熊野の遙かなる南方の海上にあるとされる観音浄土を目指しました。これを「補陀落渡

海」といい、上人は30日分の水・食料と燈油を積み込んだ船内に乗り込み、外に出られないように釘を打ち込まれ、那智の浜から伴船に引かれて大海へと船出しました。不安定な小舟です。ですからほどなく転覆したはずですが、中には沖繩まで辿り着いた上人もいて、現地で熊野信仰を広めたといわれています。境内には復元された渡海船が展示されていますが、小さな船室を囲むように4つの鳥居が建てられています。これも熊野に根付いている神仏習合の証だと思われ「と語るのは住職の高木智英さん。父・亮英さんが住職を務める那智山青岸渡寺の副住職も兼務している。

かつて人々は浄土の世界での蘇りを求め熊野を目指した。そして上人はさらに南方にある観音浄土を目指す。死を賭した捨身行がよみがえりの地・熊野で行われたのにも納得する。「命は最も大切なもの」とするのが現代風の考え方。60歳になったら渡海するのだと言われても、今の時代ではなかなかその覚悟はできないでしょう。それよりも生かされている命を人のために役立て、熊野の魅力を世界に発信するのが自分の使命だと考えています」。千数百年の歴史を有する世界遺産の寺の継承には大きな責任が伴う。高木住職の目には、その決意が窺えた。

補陀洛山寺裏山の森の中に歴代補陀落上人の墓が並ぶ。墓の前で合掌する高木智英住職。



熊野信仰を解く熊野参詣曼荼羅は当時の誘客ツールでもあった

熊野比丘尼と呼ばれた尼僧が、全国を回って寄進集めや参拝者誘致をする時に使っていた熊野参詣曼荼羅。補陀洛山寺では執事の南善文さんが曼荼羅を使って絵解きを行う。花山法皇の33観音巡礼や文覚上人の滝行などの物語のほか、先達に引率される参拝者の様子が描かれている。



四門が描かれている補陀落渡海。那智参詣曼荼羅の部分拡大図。



補陀洛山寺は、仁徳天皇の治世に開山されたと伝わる古刹。国内で行われた補陀落渡海は約50〜60とされ、半数近くが当寺で行われたことから「補陀落渡海の寺」と呼ばれる。

補陀洛山寺

住所／那智勝浦町大字浜／宮349
電話／0735-52-2523

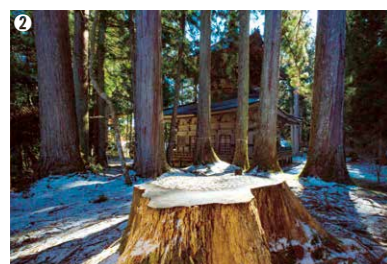


絵図や文献などをもとに1993年に復元された補陀落渡海船。全長はわずか6メートルほどで、四方に死出の四門を表す発心門、修行門、菩薩門、涅槃門の4つの鳥居が立てられている。



1 補陀洛山寺の隣に建つ熊野三所大神社。熊野三所権現を祀り神仏習合の名残を見ることができる。境内はかつての浜の宮王子跡で、中辺路・大辺路の分岐点であった。2 歴代補陀落上人が船出した那智の浜。井上靖著「補陀落渡海記」の主人公、金光坊の渡海以降は、住職が亡くなってから船に乗せて沖へと送り出す「水葬」へと変わっていったという。沖合には金光坊が座礁した磯が見える。





①壇上加藍に建つ根本大塔。先代の大塔の心柱は高野産の木だったと言われる。②中門の再建にあたり、特別に伐採された壇上加藍の大檜。西塔の奥に切り株が残る。

高野山真言宗総本山 金剛峯寺山林部

住所／高野町高野山132
電話／0736-56-2016



標高約800mの山上盆地に位置する密教の聖地・高野山。寺院の建設や修復には大量の建材が必要だが、高地がゆえに木材の確保は難しく、周囲の森の存在は重要であった。「高野山で植林が始まったのが鎌倉時代と考えられています。諸大名が献木しましたが、材木として使用できるまで育つには長い時間が必要です。森を守るといふ仕事は、数世代先までその想いを繋いでいくこともいえます」と語るのは、金剛峯寺山林部課長の中尾修也さん。

「1813年にスギ、ヒノキ、コウヤマキ、アカマツ、モミ、ツガの6種類の木が「高野六木」として、寺院や伽藍の修繕に使用する以外の伐採が禁止されました。しかし明治初期の政府から発出された土地令により、森林の大部分が国有化され、多くの大木が伐採されました。その後ようやく一部が高野山に返却され禁伐林として樹々は守り育てられ、今は保護していく森になりました。この先も高野山の歴史を守るためにも、高野の森は守らなければなりません。そのために行われているのが、献木制度です。支援者は全国に二十人以上もいます。お大師様への信仰と同様に、森を保護することに終わりはありません」と続けた。

「高野六木」を守ることは、 高野山の歴史を守ること



弘法大師御廟内で枯れ、昭和63年に伐採された樹齢700年以上になる高野杉。

World Heritage 20th anniversary 守り継ぐ人々

新しいアイデアと手法で、 1200年の森林を後世に繋ぐ

高野山の森林価値を未来へと伝えるもう一つの組織が、高野山寺領森林組合だ。金剛峯寺山林部からの依頼で、間伐や枝打ちなど現場での森林整備作業を請け負う。また森林や「高野六木」をテーマにした、ナチュラルワークショップの開催や商品開発・販売の拠点として2023年にKOYA GreenWorkshopを開設した。県内外の学校や観光客を対象に、アロマスプレー作りや苔テラリウムなどの体験プログラムを提供する。もちろん森林組合であるため、高野山内の寺院建築や改修だけでなく、寺領内の木を切り、建材として周囲の製材所に販売も行っている。

「高野山で生まれ育ちましたが、小さい頃の高野山の森は、もっと明るかったように思います。しかし木々が大きく育ち森は暗くなり植生が変わり、生物も変わりました」と語るのは、高野山寺領森林組合の西田安則さん。森を守るための、新しいアイデアによるアプローチにも積極的だ。「高野山森林セラピーは、高野山の豊かな自然環境と歴史を楽しくめると人気のプログラムで、昨年の参加者は約600人。その内リピーターが7割程度でした。今後は外国人向けの体験にも力を入れていきたいと思っています。他にも高野六木を原料としたアロマオイルなど商品の開発販売にも力を注いでいます。山の仕事は過酷ですが、最近では価値観の変化から若者の転職組も少しだけ増えてきました。今後は、森の多様性を回復させるために高野六木を中心にした森を作り、拡大したいと考えています」。数十年前のために今、作業を行うことができるのかもしれない。



①高野山森林内で行われる森林セラピーは身も心も癒される体験のひとつ。夜の高野山も楽しんでみたいと、WAKUDOKI Forest Hike!というナイトツアーも立ち上げた。②Koya GreenWorkshopで購入可能なアロマオイルなどのアイテム。オンラインショップ「KINOWA」でも購入可能。

高野山寺領森林組合

住所／高野町高野山45-17
電話／0736-56-2828



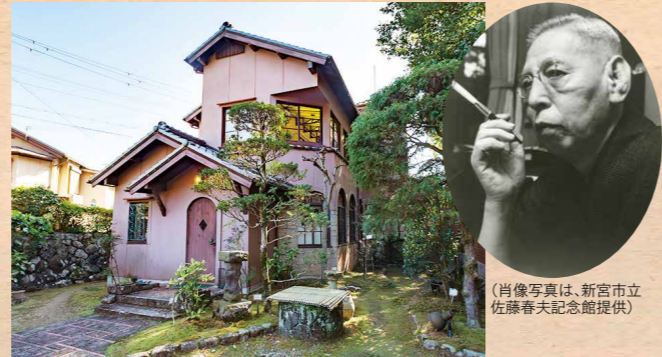
聖地・高野山の森を守り、育てる



2023年にリニューアルされた宿坊協会中央案内所内に設けられたKOYA GreenWorkshop。プログラムの当日受付も可能。

文化の遺伝子

熊野古道と海を通じて、 日本各地と繋がるまち 新宮に息づく文化の遺伝子



(肖像写真は、新宮市立佐藤春夫記念館提供)

【佐藤春夫記念館】

太宰治や井伏鱒二が師と仰いだ文豪・佐藤春夫の記念館。応接間や書斎が再現されている他、貴重な資料が展示されている。建物は西村伊作の弟・大石七分による設計で、佐藤春夫の東京の邸宅が移築されたもの。2024年4月以降は、市内への移転工事のため公開を一時中止。
住所／新宮市新宮1(熊野速玉大社境内) 電話／0735-21-1755

【東くめ歌碑】

滝廉太郎と共に、日本で初めて口語体による童謡を作った作詞家・東くめ。新宮駅前にある歌碑に代表作の一つ「鳩ぼっぼ」の詞が書かれている。
住所／新宮市徐福2-1-1



中上健次の名入り原稿用紙



【中上健次コーナー】

新宮市文化複合施設「丹鶴ホール」4階にある市立図書館内に設けられた中上健次コーナー。「岬」「枯木灘」をはじめとした重厚な作品を多数生み出した芥川賞作家・中上健次の業績を、作品や写真、再現された書斎や私物などの貴重な資料とともに紹介している。
住所／新宮市下本町2-2-1 新宮市文化複合施設「丹鶴ホール」4階 電話／0735-22-2284

【大逆事件犠牲者顕彰碑】

「ドクトル大石」として親しまれ、人権思想や平和思想の礎を築いた医師・大石誠之助。明治末期の大逆事件で無実の罪を着せられ処刑された。顕彰碑には大石ら犠牲者の名前が記されている。
住所／新宮市春日4-20



【旧西村家住宅(西村伊作記念館)】

大正3年に建てられた、文化学院の創立者であり独学の建築家・西村伊作の旧邸宅。南側に配置された居間や地下のボイラー室、リクライニングチェアなど、当時では珍しい先進的な洋風住宅だった。与謝野晶子ら文化人が集まるサロンでもあったという。
住所／新宮市丹鶴1-2-14 電話／0735-22-6570



【旧チャップマン邸】

アメリカ人の宣教師チャップマンとその家族のために西村伊作が設計した住宅。昭和には旅館として活用され、中上健次も執筆活動を行った。個人管理が難しくなる中、市民の要望を受け現在は市が管理し、ワーケーション施設としても利用可能。
住所／新宮市丹鶴1-3-2 電話／0735-23-2311

熊野の神々はまず最初に神倉山のゴトジキ岩に降臨し、その後現在の社地に真新しい宮が造営されたことからその名が「新宮」。近現代になると作家や建築家など多くの先進的な文化人を輩出してきた。その背景には、熊野古道を通じて都文化の洗礼も受けつつ、海運が主流であった時代に要衝地であったことが大きく関わっている。

熊野学研究会の中瀬古友夫さんは、「新宮は木材や薪炭の流通により発展。山で伐採した木材を熊野川に流して河口に集め、江戸へと大量に送り出していました。船は黒潮に乗り江戸まで2日で到着することもありました」と話す。京都や大阪と比べてもはるかに近く、新宮にさまざまな物資や情報もたらされました。

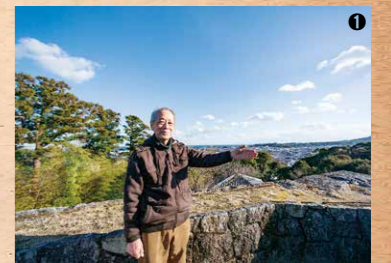
また、江戸から明治期にかけて伊勢参りが流行した際も、新宮は東北や関東の人にとって観光地の一つだった。当時の道中記によると、新宮は「小都会」と記されており、賑わっていた様子が窺える。「大逆事件」では、明治天皇暗殺計画の容疑で無関係な大石誠之助らも処刑されました。新しい思想や文化を受け入れてきたからこそ、新宮は政府に危険視されたのでしよう。」と中瀬古友夫さんは言う。木材産業の発展がもたらした豊かさや盛んな情報交流により、洗練された文化が育まれた新宮。今も各所に当時の繁栄を思わせる先人たちの足跡が残り、今も語り継がれている。



狭い所を好む佐藤春夫のために作られた、2畳ほどの書斎「八角塔」。



- ①熊野川沿岸にある新宮城跡に立つ中瀬古友夫さん。「水ノ手には炭納屋の跡が発掘されています。備長炭を江戸へ送る拠点として機能していたようです」。
- ②太平洋沿岸の航路などを描いた古地図。新宮が当時の要衝であったことを示している。
- ③中瀬古友夫さんが所有する、江戸～明治期に記された、伊勢・熊野への「道中記」や「西国道中巡礼絵図」。



節目節目に得られた 珠玉の言葉に触れる

プロ野球という厳しい勝負の世界の一線で戦い続ける。
そこには人を育てる理論と不屈の精神、そして心揺さぶる言葉があった。

岸本知事(以下岸本) ●福岡ソフトバンクホークスの監督就任、おめでとうございます。小久保さんは和歌山市出身で、プロ野球選手として大活躍されました。一方、和歌山の少年野球のために「小久保杯」という大会を開催されており、今年で20年目になりますね。子ども達が目を見ながら小久保さんからノックを受けている様子を見ると、子ども達も誇りに思える地元出身の方がいるのはいいことだなとも思います。

小久保裕紀(以下小久保) ●ありがとうございます。小学校1年生から野球を始め、硬式に移り、プロに入ったわけですが、何か恩返しをしたいと思い、「小久保杯」を始めました。子ども達のために始めた大会ですが、ずっとやっていて僕らの現役時代を知らなくても、子ども達の中に僕の名前が残っているようで、嬉しく思っています。

岸本 ●ホークスの2軍監督を2年された今シーズンからは1軍の采配を振るうことになりました。チームを育てていくうえで一番大事にされていることは何でしょうか。

小久保 ●チームプレーが成り立つためには、チームとして守るべきルールを設定する必要があります。選手はそれぞれ育った環境も価値観もバラバラで、教えてきた野球も異なります。だからホークスの野球はこういう野球なのだと

いうルールづくりを最初にしました。例えば、寮には選手100名以上が生活していますが、自分1人ぐらいたったら良いだろうとスリッパを脱ぎ放しにする

と、スリッパ200個が並びます。そして清掃の方が、一旦それを片付けて掃除し、また元へ戻す。目の前に下駄箱があるのに迷惑なことです。2軍監督になったときに最初に作ったルールが「スリッパは下駄箱にしまいなさい」ですよ(笑)。

岸本 ●小久保さんの指示はとても具体的に聞こえました。

小久保 ●例えば「甲子園に行かれたことがありますか？」と聞くとします。高校球児として行ったのか、阪神巨人戦を見に行ったのかわからないですよ。高校球児として甲子園に出場されたことがありますか？」と質問しなければならぬのです。相手が選手であれば「ウォーミングアップをきちりしなさい」といった指示ではダメなんです。100人いたら100人なりのきつくりがあるので、「置かれたマーカーマスター」が必ず走る」とか「ライティングしない」といった具体的な指示が必要です。チームとしてのルールを決めておかないとこれはまともません。

岸本 ●私もそれは反省しなければなりません。どうしても指示が曖昧になる相手もわかっているだろうと。わかっ

ているわけじゃないんですよ。チャレンジしないことが一番成長を妨げる

岸本 ●もう一つ共感したのが「ドライアル・アンド・エラー」という言葉です。実は私も知事に就任した直後、職員の方々に「失敗してもいいからまず挑戦しよう」という意味で同じ言葉を使いました。小久保さんの場合はどういう趣旨でしょうか。

小久保 ●まずやってみる。そして上手くいかなかったら、その原因を考えて、またチャレンジすればいい」ということです。失敗したら恥ずかしいとか、怒られるとか、そんなことはありません。もちろんボーンヘッドや全力を出さなかったことに対しては叱ります。しかし打てなかったことや打たれたことでは怒りません。選手には「チャレンジしないことが一番成長を妨げることになるので、心配せずにチャレンジしなさい」と話しています。

岸本 ●国会議員になる前にトヨタ自動車で2年間働いていましたが、トヨタといえば「カイゼン」です。工場で働く皆さんがどんどん提案するんですね。それを現場で実践していくのですが、思いつきです。ところが100に1つが当たるだけ、ものすごく改善するのです。それが積



知事対談

小久保裕紀 × 岸本周平
福岡ソフトバンクホークス監督 × 和歌山県知事

み重なる大きな成果が得られます。そして小久保さんも言われるように、上手いかなかったからといって叱らないんですよ。『残念、ナイストライ』って。誤ったやり方で『カイゼン』を導入した会社では上司が怒るんです。そうすると提案しなくなりますよね。そういうのを学んで、県庁でも取り入れています。

最後は歯を食いしばって 踏ん張る反復練習

岸本●言わなくてもできる人っているじゃないですか。一方、言ってもなかなか届かない人達もいるのですが、必要なのはやっぱり総合的な戦力ですから、一人ひとりに輝いてもらわなければなりません。その辺はどのように指導されているのでしょうか。

小久保●実力のある選手は自分で考えて勝手にやれるので邪魔をしないようにしています。でも実力の足りない選手には、ある程度指導しなければならぬわけですね。今の選手達には数字で示すのが一番で、昔のように経験や感覚で指導するのはタブーになっています。感覚って人に教えられるんですよね。現在では打球の角度や速度、バットの軌道、スイングスピードなど全てを数値として見る事ができます。だから測定結果を見せて、「この数字を上げるためにはこの練習が必要だ」といった指導をします。『バットを振

りなさい。ダッシュしなさい』では選手は動かない時代になりました。

岸本●小学生の頃から柔道をやっていたのですが、練習中は水を飲むとか昭和の根性論でやっていました。しかし今の若い人にはそのような科学的で合理的な方法を取ったほうがやる気を出してもらえるのでしょうか。

小久保●ただ、最後は歯を食いしばって踏ん張ることができない選手は伸びません。緊張した試合の緊迫した場面で打席やマウンドに立った時に、自分が持っている悪い癖を消すのには、『反復練習』しかないんですよ。反復練習を抜きにして『型』は手に入りませんし、反復練習を嫌う選手はトップには上がってこれません。

岸本●やはり最後は頑張るって練習しなければならぬことですね。

小久保●そうです。投手がボールを投げ

を捨てよ」という言葉をもらいました。『修行から感じたことが一番大事で、成し遂げたこと自体が素晴らしいことではない』という意味です。2000本打って名球会に入ったから偉いのではない、実績を振りかざしながらこの先の人生を歩んだら間違えますよって。有頂天だった気持ちもポンと折ってもらえたようでした。

岸本●人生に無駄なことってないですね。私も高校生の時、数学の先生に、『良いことがあれば必ず悪いことがある。だけども悪いことがあれば必ず良いことがある。だから悪い時にはよくよくよくなっていいし、逆に良い時は調子に乗ってはダメだ』と言われたことが心に残っています。

小久保●小学1年生だった時の監督にいただいた手紙が最近出てきて、晴れの日はやはり続かない。雨の日もある。でも雨の日ばかりも続かない、その後また

が、何度も這い上がってこられました。

小久保●最初の頃は、調子のいい時に限って怪我をしていたので、『どうして自分だけこんな目に遭わないといけないんだ』と思ったこともありました。しかしリハビリ中に学んだことはすごく生きていますし、離脱の回数が多ければ復帰の回数も多いので、復帰を拍手で迎えてくれたファンやリハビリを支えてくれたスタッフ、ドクターのことは今もよく思い出します。そういった経験をして、『人生で自分に降りかかることは必然で必要なんだ』と思えるようになりました。

岸本●8回骨折して8回手術されたと聞きました。

小久保●練習のし過ぎだったんですよ。靭帯が耐えられなくなって切れてしまつて。右バッテリーって首を左に向けて打つので、首の骨が成長して神経を圧迫するんです。大きな手術だったので、麻酔から覚めて体が動いたときはほっとしました。

行を終えたら行を捨てよ

岸本●そんな経験をすると精神的にもタフになるでしょうし、宗教的な悟りにも似ていますね。

小久保●そう思わない限り、前には進めなかつたと思います。千日回峰行という過酷な修行をされた大阿闍梨の塩沼亮潤さんとご縁があり親しくさせてもらっています。引退した時に、『行を終えたら行



小久保裕紀

福岡ソフトバンクホークス 監督
和歌山市生まれ。和歌山県立星林高等学校から青山学院大学へ進学し、1992年バルセロナオリンピック銅メダル、1993年主将として青山学院史上初の大学野球日本一に貢献。プロ現役時代、福岡ダイエーホークス・福岡ソフトバンクホークス、読売ジャイアンツに所属。2013～2017年侍ジャパン監督。2022年シーズンからは福岡ソフトバンクホークス2軍監督を務め、2024年シーズンより一軍監督。



知事対談

小久保裕紀 × 岸本周平

福岡ソフトバンクホークス監督 和歌山県知事

て打者が打つまで0.4秒ぐらいと言われていますが、スイングに0.2秒かかるので、0.2秒しか判断する時間はありません。人間は見ているから、見てから打つのは不可能なんです。だからある程度予測してバットを振るのですが、そのためには反射を鍛えなければならず、反復練習が必要なんです。目標までの最短距離はわかっていても練習の回数をこなさないと一流にはなれません。

岸本●体験と経験が違うっていうのはそういうことですね。

小久保●『体験』って思い出で終わるじゃないですか。一方、『こういふところが良かった』『ここを改善しましょう』といった第三者によるフィードバックが入るのが『経験』です。独りよがりの『やりました』というのは、本を読んだだけで行動しなかつたり、『YouTubeで理論だけ頭に入れて反復練習をしないのと一緒です。成長するためには『経験』が必要ですよ。』

人生で起こることは 必然で必要なんだ

岸本●小久保さんは2000本安打にベストナイン、ゴールデングラブ賞など輝かしい経歴をお持ちですが、むしろ守備位置から全力疾走でベンチに帰る姿やガッツのあるプレーが印象に残っています。怪我や故障も多くて苦勞されました。

晴れる。人生とはそういうものなんだ』と書かれています。母がずっと取ってくれていたのですが、今振り返ると、人生の真理みたいなものをその時に伝えてくれていたんだなあと思えます。

岸本●たくさん本も読み、多くの方のお話を聞かれています。母が、やはりインプットを大切にされているのでしょうか。

小久保●はい。そこは意識しています。同時にアウトプットも大事にしています。んだことはすぐにやるし、人に伝えるようにしています。人に上手く伝えることができる。立場が下の人に教えたならその人がすぐに伸びるからもういいって言う人は、すぐに抜かれてしまふと思うんですよ。教えることによって、自分がもう一段上がれますし、新しいことを学ぶスペースもできます。難しいですけど欲しけりゃ捨てる。『こういうことなんですね。実は人としての器というのは決まっています、その器にいっぱいになった水を捨てる勇氣があるかどうかだ』ということなんです。高校の大先輩である松井優典さんには『スポンジになれ』と言われました。次に進むにはカラカラのスポンジにならなければならぬ。水がヒタヒタなら何も染み込まないという意味でした。節目節目に素晴らしい言葉をいただけて、とても感謝しています。

岸本●本日はすごく勉強になりました。ありがとうございました。



聖地
リゾート
Seichi Resort
WAKAYAMA
和歌山



うたせ船 箕島漁港と

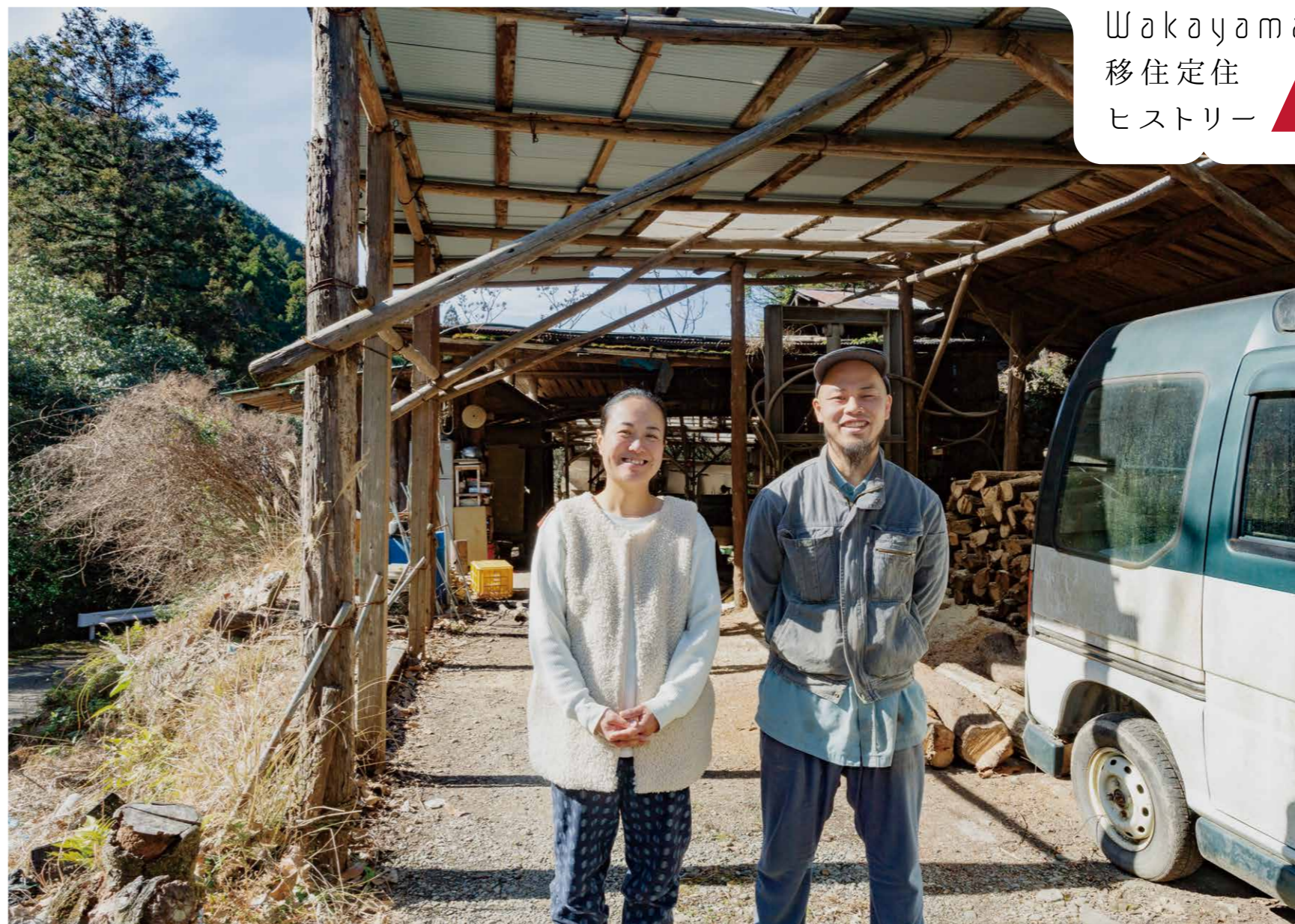
有田みかんで有名な有田市は、タチウオの漁獲量日本一を誇る漁業の街でもある。タチウオは地元では「たっちょ」と呼ばれ、6月から10月に旬を迎える。真夜中の午前3時に箕島漁港を出港し、午後3時頃に帰港する。黄色にペイントされた小型の底引き網漁船は「うたせ船」と呼ばれ、青い海と青い空を背景に佇むその姿は、箕島漁港の象徴的な風景である。



①軽トラを走らせ2分ほどで炭焼き小屋に到着。紀州備長炭の生産量日本一を誇る日高川町には約40人の職人がいて、町には炭焼きの香りが広がっている。
②3匹の愛猫も家族の一員。長女猫の冬ちゃんに語りかける周子さん。③縁側から見える山を指差し仲睦まじく話すふたり。④仕事の合間にちょっと一息。「お休みも自分次第。仕事の段取りもマイペースにできるのがいいですね」と弘貴さん。⑤陽だまりの中、縁側でウトウトと眠くなるのは人だけじゃない。

紀州備長炭ができるまで

①原木のウバメガシを山で伐採。太いものは割って細く、曲がった木は、のこぎりやナタで切れ目を入れたり、楔を打ち込んだりして真っ直ぐにする。②細い木は数本ずつ束ねて窯の中に。立てて入れるのが紀州備長炭の焼き方の特徴。③火を絶やさぬよう注意深く見守る。窯出し前日は夜通しつきっきりで作業。「火を起こすだけでなく、空気や水をきれいにしてくれる紀州備長炭は先人の知恵の塊です」と弘貴さん。④窯から出した炭に灰をかけて消火。固く締まりのよい備長炭は、叩くと鋭い金属音がする。



「炭焼きを通してたくましく生きる力を手に入れた」と笑顔が眩しい伊藤夫妻。

紀州備長炭 伊藤商店

住所／日高川町上田原178
電話／090-3706-1384



自分らしさを求めたどり着いた紀州備長炭の地

紀州備長炭 伊藤商店 ● 伊藤弘貴さん 周子さん

最高品質の木炭として知られる紀州備長炭の炭焼き職人として生計を立てている伊藤弘貴さんと周子さん。周子さんは東京で東日本大震災を経験し、それを機にこどもを田舎で育てたいと関西に移住。まもなく弘貴さんと出会い、3人の生活が始まったものの、より自分らしく暮らせる場所はないかと探していた時、「和歌山県の移住フェアに参加し日高川町を知りました。移住者も多く、受け入れにも積極的に取り組み、多様性のある町であること、地場産業に従事できることも魅力に感じました」とご夫婦。早速町を訪れてみると、ご近所の人から「早くおいで」とうれしい言葉が投げかけられた。さらに思い描いていた古民家も見つかり、子どもが小学校に上がるタイミングで移り住んだ。

日高川町に住むにあたり、弘貴さんは炭焼き職人になることに迷いはなかった。修行中に「使っていない窯があるよ」と声をかけてもらい、譲り受け独り立ちもした。「周りの人たちが気にかけてくれるのもありがたいです。山の木を切り、炭にして売る。自分たちは和歌山の自然のおかげで生活しています」と感謝の気持ちを忘れず備長炭作りに日々勤しむ。また、2018年には長男が、2021年には次女が誕生し、現在は家族5人、そして猫3匹とともに賑やかな毎日を送っている。仕事に子育てで大忙しのふたりではあったが、2023年夏に、古民家をもう

1軒借り、国内外の学生らが田舎暮らし体験を行う「教育民泊」の受け入れを始めた。「旅に出る機会が減ったので、それなら来てもらおうと思ったんです。外国人のお客様だと言葉が通じないこともありますが、一緒に料理するなどして家族全員でおもてなしをします。将来は炭焼き体験も取り入れたら、援農に来ている人達のためのシェアハウスを始めたいな」と目を輝かせる周子さん。ご夫婦の周りには笑顔が溢れ、出会った人との絆がしっかり結ばれている。

緑の山々と豊かな清流 アウトドア体験の宝庫 自然溢れる日高川町



山々に囲まれ、町の中心に清流・日高川が流れる日高川町。椿山ダムに架かる吊り橋を渡ると、やまびこを楽しめるポイントが点在。川遊びを楽しむ家族連れ、鮎やアマゴ目当ての釣り客も多い。川沿いの景色を眺めながらサイクリングやトレッキング、キャンプなど様々なアウトドアも楽しめる。

導電性素材を編み込んだニット生地。触れるだけで、スマートフォンを使って心拍数を測定できる。生地は金属が含まれているとは思えないほど柔らかだ。



古くから高野山参詣の玄関口として栄え、江戸時代にはすでに織物が盛んだった橋本市高野口町。やがて技術が進み、昭和には日本一の生産高を誇るパイル織物が生まれ、現在にも技術が継承されている。そんな地域で、繊維産業に欠かせない「糸」を作っているのが「林燃系」だ。4代目社長の林雄太さんは「当社は昭和7年に大阪で創業し、染物や軍足を手掛けていました。戦時中に一家で高野口へ疎開。織物の産地で何が必要とされているかを考え、2代目である祖父が燃糸事業に着手したそうです」と話す。燃糸とは、糸と糸をねじり合わせることで、複数の糸や異素材のものを束にすることで、繊維の性能を高めたり、特性を変化させることが可能になる。「代々受け継がれている精神は、ないものをつくること。素材にこだわらず、ねじれるものは何でもねじれるをモットーにしています」と林さん。

ねじれるものは何でもねじる

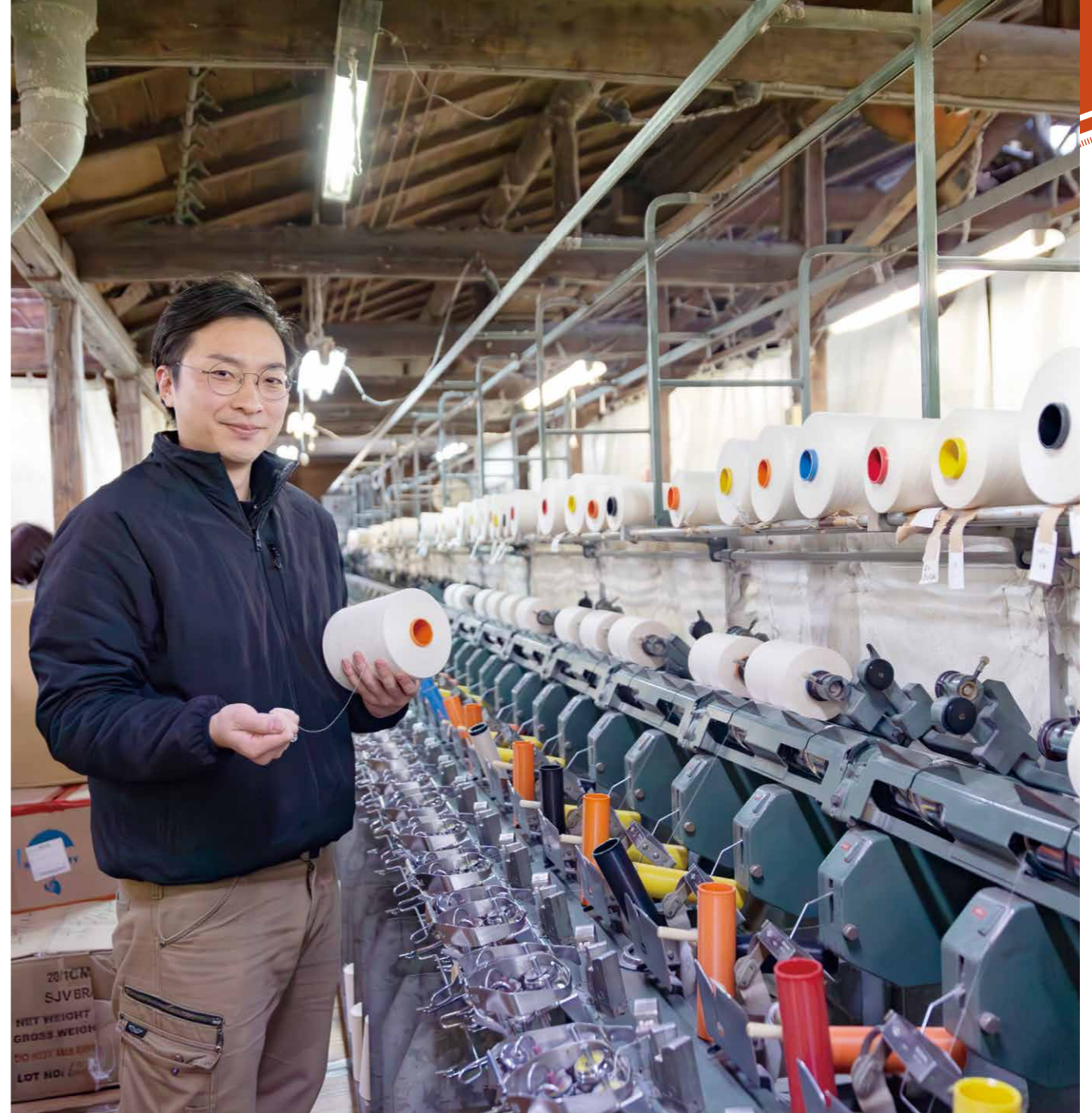


燃糸の持つ大きな可能性

① 選べば原始時代から用いられてきた技術だという燃糸。同社では、人の生活に根差した繊維も手掛けながら、最先端技術を使った糸など多様なニーズに合わせて製造している。② 目では追えない早さで2本の糸がより合わされていく。湿度なども考えねじり具合を調整している。③ オーガニックコットンの燃糸の様子。④ 「異業種についても追及することが、優れた糸を生み出すことに繋がる」という林さん。⑤ 既存の機械に独自の改良を加えて生み出される唯一無二の製品は、世界的なハイブランドに採用されることも。

これまで林燃系は、その柔軟な発想と磨き上げてきた独自の技術のもとで、多彩な製品を生み出してきた。中でも注目したいのが、生体センシングに関わる導電性素材の燃糸技術だ。医療機器に使用される極細ワイヤーと、コットンなどの肌触りの良い素材を融合した糸でつくられた衣類を身に付けることで、誰でも気軽に日常の健康状態を測ることが可能になる。加えて、膨大な情報収集により医療の発展が期待される。糸の持つ可能性を追求し、画期的な製品を作り続ける林燃系。同社の技術は、万博パビリオンの内装材としても使われる予定で、業界を超えたこれからの活躍が楽しみだ。

林燃系株式会社
橋本市高野口町名倉879
0736-42-3205



音の反響を防ぐのこぎり屋根の昔ながらの木造工場で、独自技術を活かした多種多様な燃糸を製造。

凄いと和歌山

Only one Story

豊かでダイナミックな自然に恵まれた和歌山。しかし凄いのはそのそれだけじゃない！あっと驚く技術を持った企業をご紹介します。

03

パイル産業 × 燃糸技術

① 柔らかな手触りを実現した紙の糸。サステナブルで、日常使いが期待される。同社には、シート状の素材も糸にできる技術があり、これまで繊維産業とは関わりのなかった分野からも注目されている。
② 消防服に使われるアラミド繊維をベースに、使い心地を追求したオリジナルの耐熱手袋「ATSuBOuGu」。



今号の「和」題

旬の和歌山情報をお届けします!

WAI TOPICS 01

熊野古道大辺路「安居の渡し」が復活! 貴重な財産を後世へ繋げる

世界遺産登録20周年を迎えた今年2月、熊野古道大辺路の「安居の渡し」が復活しました。安居は、現在の白浜町(旧日置川町)にあり、古くから大辺路の要所として発展。「安居の渡し」とは、大辺路の富田坂を下った先にある安居の集落から仏坂に向かうため、日置川を渡る渡し舟のことを言い、大辺路の中で唯一、舟で渡る熊野古道です。江戸時代には既にあったとされ、熊野三山への参拝者だけでなく、住民も日常生活の中でも利用していたとされていました。しかし、利用者減少に伴い、1950年頃には運航が途絶えてしまいましたが、その後、旧日置川町に舟が寄贈されたことを契機とし、2005年地元有志により「安居の渡し保

存会」を発足。一昨年の利用者は延べ1万人を突破するなど多くの声にボランティア体制で応えていたが、船頭の高齢化や資金難などの理由から、昨年から再び休止されていました。

世界遺産登録20周年を迎え、地元のヒノキで作られた乗船手形を手に、昔ながらの舟で清流・日置川を渡り、大辺路踏破を目指す利用者増加に期待が寄せられています。



問い合わせ/白浜町日置川事務所産業建設係 電話/0739-52-2302

WAI TOPICS 02

北山村原産の「じゃばら」で村を元気に! 新たな加工施設が完成!



日本で唯一の飛び地村・北山村で、一本の原木からスタートしたじゃばら栽培は、今や村の産業を支える特産品に成長しています。「邪(気)をはらう」ところから名前がつけられた「じゃばら」は、村では昔から正月料理にかかせない縁起物の食材とされていました。糖度が高く、苦酸っぱい中にもまろやかな風味があり、果汁が多いことが特徴です。また、じゃばらの果汁には、ビタミンA、ビ

タミンCの他、「ナリルチン」という成分が他の柑橘に比べて突出して多く、ゆずの6倍、カボスの27倍もの量が含まれています。

毎年およそ100トンの果実をジュースやジャムなどに加工し、全国へ出荷している北山村に、令和5年11月に新たな加工施設が完成しました。老朽化していた旧施設に代わるものとして、ふるさと納税も活用し建設。これにより生産量の向上だけでなく、これまで外注していた工程も村内で対応が可能となり、多様なニーズへの対応や、より品質の高い商品開発にも期待が寄せられています。加工施設は株式会社じゃばらいず北山が運営しています。

問い合わせ/北山村役場地域事業課 電話/0735-49-2331
問い合わせ/(株)じゃばらいず北山 電話/0120-928-933



取材をバックアップします!

和歌山県では、メディア関係の皆様へ取材への積極的な協力・現地情報の提供等を行っています。

- お問い合わせ
- 和歌山県広報課
TEL. 073-441-2032 FAX. 073-423-9500
e-mail/nagomi-waka@pref.wakayama.lg.jp
 - わかやま紀州館
東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館B1F
TEL. 03-3216-8000 FAX. 03-3216-8002
e-mail/kishukan@wakayama-kanko.or.jp

- 和歌山県観光連盟フォトライブラリー(写真貸出)
<https://www.wakayama-kanko.or.jp/travel-agencies-and-groups/photo-library/terms-of-service/>
- 和歌山県PR動画(動画素材貸出)
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/media/>
- 和-nagomi-バックナンバー
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/nagomi/>

ふるさと和歌山応援寄附
ふるさと納税で、元気なわかやまに。

1万円以上の寄附で和歌山を味わえる「梅干し」や「醤油」など、プレミアム和歌山の商品等482品の中から贈呈!(県外にお住まいの方が対象)
※詳しくは、ふるさと納税サイトをご覧ください。
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/010500/furusato/>

和歌山 人・もの・地域

和 nagomi 2024 vol.53

企画・発行/和歌山県
発行日/令和6年3月15日
企画編集/サンケイ広告(株)
制作/(有)YS'pros
印刷/中和印刷紙器(株)

「和-nagomi-」はリサイクル適性Aランクの材料及び植物油を含有した印刷インキを用いて制作しています。



伝統製法でつくる希少なニホンミツバチの百花蜜

江戸時代に、熊野蜜として全国に名声を得て、はちみつの産地として知られてきた古座川。そこで伝統的な養蜂を受け継いでいるのが「ベリー工房高田」だ。代表の高田弥子さんは夫のりたア後、2011年に夫婦で滋賀県から移住。「地元の方からいただいたはちみつは、感動。それから蜂の魅力にとりつかれ、2014年頃から本格的に養蜂を始めました」と話す。

古座川のはちみつは、野生のニホンミツバチを用いた「百花蜜」。セイヨウミツバチとは異なり複数の種類の蜜を集める性質から、古座川の山に咲くさまざまな花の蜜がブレンドされたはちみつは、香りよくまろやかで奥深い味わいが魅力だ。飼育に使われるのは、杉や桜の丸太をくりぬいた「ゴウラ」という伝統的な巣箱。採取



には一般的な遠心分離機を使用せず、ゴウラを逆さにして、蜜が自然に落ちるのを待つ「垂れ蜜」という方法で行われる。体力と技術がいるが、雑味のない自然蜜に仕上がる。「ニホンミツバチは気まぐれで飼育が難しいんです。でも難しいからこそ、夢中になってしまつて」と高田さん。古座川の豊かな自然の恵みがつまった熊野蜜。昔ながらの丁寧な製法からなる上品な味わいを、ぜひたくに楽しもう。

南紀熊野蜜
販売者/ベリー工房高田
住所/古座川町洞尾207 電話/0735-75-0073
価格/200g 4,000円 500g 10,000円
道の駅一枚岩モリス、道の駅虫喰岩、道の駅蔵之持太郎などで販売する他、ふるさと納税の返礼品としても出品 ※数量限定

令和4年度プレミアム和歌山推奨品
審査委員奨励賞 受賞

和歌山県優良県産品(プレミアム和歌山) 推奨制度
安心・安全を基本に幅広い分野で優れた県産品を「和歌山らしさ」、「和歌山ならでは」の視点で推奨する。

プレミアム和歌山 検索

残間里江子審査委員長
審査をするごとに、和歌山県の新たな魅力を発見しています。自然豊かで、おいしいもの、魅力的な品がたくさんありますので、ぜひプレミアム和歌山にご注目ください。

【探訪】麻酔手術の先駆け・華岡青洲ゆかりの地

世のため、人のため、地域のため
生涯をかけて尽くした世界の医聖・青洲の精神

頭影活動に力を入れている青洲の里では、学習会や検定会を実施し、多くの語り部を育成。テキストを監修した谷脇さんは、講師として老若男女に青洲の生涯や志を伝えている。

江戸後期の医師・華岡青洲は、現在の紀の川市に生まれ、23歳で医学修得のため京都へ遊学。三國志にも登場する古代中国の名医・華佗が手術に麻酔を使用していたと知り、自ら麻酔薬を作り病に苦しむ人々を救いたいという志を胸に帰郷する。村医者であった父の跡を継いで診療する傍らで麻酔薬の研究に没頭。家族の協力のもと実験を重ね、通仙散を完成させ、1804年に世界初の全身麻酔による乳がん摘出手術に成功した。



住居兼診療所・春林軒。入院のための病室が設けられるなど、先駆的な医療施設だった。患者や門下生が入りきらないときは、村民が自宅を開放するなどして協力していたという。現在は当時の様子を再現した人形や資料が展示されている。

青洲の里で評議員の谷脇誠さんは、「青洲は医学の分野だけでなく、世のため人のために様々な貢献をしました」と話す。もともとこの地域は水が不足し米作りもままならず、村人たちは困窮。そんな中、青洲は私財を投じて貯水池「垣内池」を築き、村人の生活を潤した。今なお、近隣の農家はその水を利用して米作りを行っているという。「ため池の整備は、春林軒を支える地域の人々への恩返し。青洲は、人への思いやりを称える父や弘法大師の教えの影響を受け、世の中に尽くしました」と谷脇さん。

生涯で150症例以上の乳がんを治療した青洲。他にも白内障や骨折など病状に応じて内科・外科治療を行っていた。



青洲が考案し、華岡家に代々伝わる手術器具。腫瘍の摘出などに使用された。



診療所 春林軒には数多くの患者が訪れ、さらに最先端の医学を学ぶため、日本中から藩医や町医者らが門下生として押し寄せたという。病に苦しむ多くの患者を救っただけでなく、後進の育成にも力を注ぎ、地域の人や後の時代を生きる人にも手を差し伸べた青洲。その生き方は、現代を生きる私たちにも多くの学びを与えてくれる。



青洲が私財を投げ打ち、灌漑用ため池として拡張工事を行った「垣内池」。



麻酔薬「通仙散」の原材料となった曼陀羅華(チョウセンアサガオ)。



健康をテーマに「学んで、食べて、遊べる」道の駅。故・黒川紀章氏設計による曼陀羅華の花をモチーフにデザインされたフラワーヒルミュージアムでは、青洲と門下生が残した貴重な資料を展示。また、春林軒では当時の様子を知ることができる。

道の駅 青洲の里

住所/紀の川市西野山473
電話/0736-75-6008



※写真の一部は紀の川市提供



華岡青洲

【はなおかせいしゅう】

宝暦10年(1760年)旧暦10月23日。代々医師の家系に育ち、古代中国の伝説的な名医・華佗が麻酔薬を使って手術を行ったという言い伝えを知り、麻酔薬の開発を志す。曼陀羅華(まんだらげ)という植物に着目し、さまざまな調合を繰り返して麻酔薬「通仙散」を開発。それを用いて世界で初めて全身麻酔による乳癌手術を成功させた。欧米で全身麻酔が行われたのは、青洲の手術の成功から約40年後。有古佐和子による小説「華岡青洲の妻」では、青洲の麻酔薬開発にける執念と、自ら人体実験に身を捧げ青洲の愛を争う嫁姑の葛藤が描かれている。